

**第10回(2010年度)佐治敬三賞は
「井上郷子^{さとこ}ピアノリサイタル#19
モートン・フェルドマン作品集」
および「東京シンフォニエッタ
第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」に決定**

公益財団法人サントリー芸術財団(代表理事・堤剛、鳥井信吾)は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第10回(2010年度)受賞公演を「井上郷子ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」および「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」の2公演に決定しました。

●選考経過

1. 応募のあった2010年実施公演について2011年1月10日(月・祝)東京・丸の内の東京會館において、選考委員8名により第一次選考を行い、候補公演を選定した。
2. 引き続き3月7日(月)東京・赤坂のANAインターコンチネンタルホテル東京において最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第10回(2010年度)佐治敬三賞に「井上郷子ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」および「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」の2公演が選定され、14日(月)理事会において正式に決定された。

●賞金は200万円。今回は同時受賞につき各100万円が贈られる。

●選考委員は下記の8氏。

磯山 雅・伊東 信宏・岡田 暁生・岡部 真一郎・白石 美雪
檜崎 洋子・沼野 雄司・三宅 幸夫

(敬称略・50音順)

●「^{いのうえさとこ}井上郷子ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」

<贈賞理由>

現代音楽を専門に演奏する邦人ピアニストは数多くいるが、デビュー当初から、そのレパートリーが厳しく吟味されている点において、井上郷子の活動は際だっている。徹底して「アメリカ実験音楽」に定点を置き、そこからヨーロッパと日本の音楽を眺めることによって「一貫性がありながらも多彩である」という一見矛盾するような幅を持った選曲が可能になったということなのだろう。さらに彼女の場合、こうしたレパートリーと呼応するようにして、一音一音が高い純度を保った濁りのない演奏スタイルを確立してきた点も重要である。今回の「モートン・フェルドマン作品集」は、そうした井上の美点がすべて生かされた演奏会であった。前半の小品群（主に50年代に書かれた五線譜による作品）では、時にはロマンティックな音の身振りを交えながらも、しかし奏者が音を「聴く」姿勢が徹底しているために、出てくる音響はあくまでも清潔であった。そして後半、1時間を超える《バニータ・マーカスのために》では、おそらくは晩年の作曲者が意図したとおり、停滞した時間の中で聴き手の耳に細部のみが次々に浮かび上がってくるという仕掛けが完全に実現されていた。全編を通してブレの全くない、しかし同時に単調には陥らない解釈は、世界のフェルドマン演奏の中でも特筆すべき水準に達しているものと評価できる。

<公演概要>

名 称：「井上郷子ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」

日 時：2010年2月28日（日）

会 場：東京オペラシティ・リサイタルホール

曲 目：モートン・フェルドマン作曲

2つのインターミッション

インターミッション5

インターミッション6

エクステンションズ3

ラスト・ピース

ピアノ曲（フィリップ・ガストンに）

バニータ・マーカスのために

ピ ア ノ：井上郷子
主 催：井上郷子

●「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」

<贈賞理由>

東京シンフォニエッタは、かねてから極めて意欲的な活動を展開してきた室内オーケストラであるが、とりわけ、2010年12月の「湯浅譲二特集」と題された定期演奏会は、創意に満ちた企画と充実した演奏が一体となった大きな成果であった。作曲家自身との緊密な協力のもと、50年代半ばの《7人の奏者のためのプロジェクションズ》にはじまり、80年代の《世阿弥・九位》、近作である《室内オーケストラのためのプロジェクション》(改訂初演)という湯浅譲二の膨大なレパートリーのなかからの3曲が巧みに選ばれ、湯浅が大きな影響を受けたヴァレーズの古典的名作《オクタンドル》と彼が将来を期待する若手として強く推す今井智景の近作がそれらと並置されることで、プログラムには、一つの流れが大きな立体的広がりと共に生まれていた。コンパクトな一晩の演奏会をもって、我が国の音楽界の重鎮の足跡の一面を作品をして極めて雄弁に語らしめた点は、高く評価された。さらに新たな可能性の地平を模索し続ける作曲家の現在をも鮮やかに描き出すところとなっていた点については、音楽監督の板倉康明以下、メンバーたちの力の籠った演奏が大きく貢献していた。

<公演概要>

名 称：「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」

日 時：2010年12月10日(金)

会 場：東京文化会館小ホール

曲 目：エドガー・ヴァレーズ／オクタンドル

湯浅譲二／7人の奏者のためのプロジェクションズ

今井智景／シモルジェネシス17人の演奏家のための

湯浅譲二／室内オーケストラのためのプロジェクション

湯浅譲二／世阿弥・九位4チャンネルテープと室内アンサンブル

のための

出 演：指揮／板倉康明 演奏／東京シンフォニエッタ

主 催：東京シンフォニエッタ

以 上

(ご参考)

佐治敬三賞について

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤剛、鳥井信吾）は、故・佐治敬三（サントリー元会長、サントリー音楽財団元理事長）の功績を記念して、2001年度（平成13年度）から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は200万円。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては鳥井音楽財団（現サントリー芸術財団）を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

1999年11月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたりました。

これまでの受賞公演

第1回（2001年度）

「篠崎史子 ハープの個展 VIII ～新たな領域を求めて～」

2001年10月19日 東京文化会館小ホール

「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ

～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」 2001年8月31日

横浜みなとみらいホール

第2回（2002年度）

「アンサンブル・ノマド 2002年度定期演奏会#1」

2002年9月17日 東京オペラシティ・リサイタルホール

第3回（2003年度）

「現代の音楽展2003 室内オーケストラの領域 III」

2003年3月17日 東京文化会館小ホール

第4回（2004年度）

「三井の晩鐘」

2004年10月24日 イシハラホール

第5回（2005年度）

「next mushroom promotion vol. 8 『細川俊夫～50年のランドスケープ』」

2005年10月15日 ムラマツリサイタルホール新大阪

第6回（2006年度）

「武生国際音楽祭2006」

2006年9月2日（土）～10日（日） 越前市文化センター他

第7回（2007年度）

「フランス現代音楽からの潮流～井上麻子×藤井快哉 DUO」

2007年11月17日（土）

兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター

第8回（2008年度）

「実験室 vol.2 『偽のアルレッキーノ／カンパネッロ』」

2008年3月27日（木）・28日（金） ミレニアムホール

第9回（2009年度）

「クロノイ・プロトイ 第5回作品展～弦楽四重奏の可能性」

2009年12月9日（水） 東京オペラシティ・リサイタルホール

第11回（2011年度）「佐治敬三賞」応募について

2011年1～6月実施公演の応募受付は終了しました。

2011年7～12月実施公演の応募方法は以下のとおりです。

- ・対象公演 2011年（平成23年）7月1日から12月31日の間に国内で実施される音楽を主体とする公演。
- ・応募方法 所定の応募用紙にて応募いただきます。公演の記録映像、録音、印刷物などがある場合は資料として提出いただく場

合があります。応募要項・用紙は、住所・氏名・電話番号を明記の上、郵送またはFAXにてサントリー芸術財団までご請求下さい。また財団ホームページからもダウンロードできます。

- ・応募期間 2011年4月1日（金）から5月31日（火）
- ・お問合せ先 サントリー芸術財団音楽事業部
〒107-0051
東京都港区元赤坂1-2-3 赤坂見附MTビル
電話（03）3479-1594
FAX（03）3479-2101
<http://suntory.jp/SMF/>

以 上